

も、こちらが求める運賃にはならない」と嘆く。
 同事業者は、「下限運賃が義務化されれば、必然的に採算の取れる運賃が収
 受できるはず。以前からバス運賃のように上限・下限を定めてほしいと思っ
 ていたが、坂本会長の考えは、まさしく中小・零細の運送会社を救う内容」と語
 る。
 (佐藤弘行)

逆下

水屋に運送業務を発
 注する(図の「取引
 A」)。実際の運送業
 務はその後、大手水
 屋がチャーターした

躍進する 女性陣

第857回

「3レーン キダナナ
 コ ダイマツウンユ」
 11秒で勝負が決まる
 国内トップクラスの陸上
 女子100m。所属する
 ダイマツウンユの名をキ
 ダさんら各選手が、シー
 ズン真っ只中の各地の競
 技場に響き渡らせてい
 る。

ん、佐藤瑠歩さん(写真
 左から順に)。4人とも
 大松運輸(仲松秀樹社長、
 横浜市金沢区)がこの3

現場にはこの軽トラックで。「荷下ろしに3時間待
 たされたこともあります、現場は皆さん優しい」。



大松運輸

喜田奈南子さん、有賀知春さん、田橋柚希乃さん、佐藤瑠歩さん

年間にアスリート採用
 した女子陸上選手だ。
 3年前、最初に入社し
 た喜田さん。男性のアス

リート採用を5年前から
 始め、すでに実績のある
 大松運輸の名を就職エー
 ジェントから聞いたのが

競技場に響かせる 「ダイマツウンユ」

きつかけだった。
 短距離の自己ベストは
 100m11秒87、200
 m24秒29。全国大会にも
 出場したが、「目立った
 成績がないので大企業に
 行くということもなかっ
 た」。

有賀さんは昨年11月
 に、高校・大学で同期の
 田橋さんと佐藤さんはと
 もに4月に入社したばかり。
 3人とも先駆者の喜
 田さんのつながりで採用
 された。有賀さんの40
 0mハードル日本選手権
 出場をはじめ、トップレ
 ベル選手が集う大会の経
 験者ばかりだ。

事務職で働く田橋さん
 以外の3人は住宅用建
 材を配送する乗務員職。
 「朝、お風呂の浴槽を現
 場に運び、軽トラックで
 そのまま陸上の練習場に
 (西口訓生)

行く(有賀さん)のが
 日課。「お昼の暖かい時
 間に練習させてくれてい
 る。理解してもらって
 るのを感じる」(同)、「午
 前中仕事をして夕方3
 時間練習時間を確保
 できる。いい環境で居
 せてもらえる」(田橋さ
 ん)、「新入社で変化した
 環境にまだ慣れていな
 い。疲れもあるが理解し
 て下さる」(佐藤さん)。
 4人とも基調は感謝だ。
 「陸上を軸として友達・
 仲間にも恵まれた。陸上
 今後貢献していきたい
 ら」。そう話す喜田さん
 はすでに、中学生らの部
 活動の指導員としても活
 動を始める。会社幹部だ
 けでなく、彼女たちを応援・
 理解する社員の輪も
 広がっている。